

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和7年1月17日 No.81

高浜市児童生徒美術展



【高浜中学校3年生の作品】

先週末「高浜市児童生徒美術展」が行われ、本校からも代表児童の作品が展示されました。一年生から六年生までの作品が並び、その成長が実感できます。そして、中学生の作品（左下）を見ると今後の子どもたちの成長がさらに楽しみになりました。

高浜市児童生徒美術展

1月11日(土)～12日(日)

かわら美術館・図書館にて

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和7年1月22日 No.82

1月の黒板イラスト



上の写真は、掲示委員会による職員室前の黒板掲示板の今月のイラストです。年明けから作業が始まり、ようやく完成しました。新しい年の始まりにぴったりな七福神が宝船に乗って荒波の大海を進む様子が描かれています。大変時間をかけて丁寧に描いており、この前を通る子どもたちからは、「すごい！」という歓声が上がったり、「大きくなったら私も描きたい」と言ったりする子もいました。毎月、掲示委員会の子どもたちがその季節に合うようなイラストを描いてくれますが、日本の伝統や文化についてよく理解しているのだなとあらためて感じました。

□七福神とは

人々の身近にあって暮らしに幸運をもたらす七柱の福の神が「七福神」です。年賀状などのイラストには、「今月のイラスト」のように、宝船に乗った七福神が描かれているのを見たことがある方も多いのではないのでしょうか。この七福神が、現在のような姿で人々に定着したのは江戸時代中頃と言われています。当時の浮世絵に宝船に乗った七福神が描かれ、正月には初詣でを兼ねての七福神詣でが庶民の間で盛んに行われました。それまでは三福神だったり五福神だったり、神々も一定ではありませんでしたが、享和年間頃には恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁財天、布袋尊、福祿寿、寿老人と、今の顔ぶれに落ち着いたようです。この七柱のうち恵比寿を除いて六柱はインドや中国など海の向こうからやってきた神々だということは知らない方も多いのではないのでしょうか。

これまでの黒板イラストと違うところは、担当の名前に、「有志一同」とあるところです。5、6年生の児童会や各委員会によるあいさつ運動にも4年生以下の子が参加し、一緒にあいさつをしてくれることがよくあります。同じようにこのイラストにも率先して力を貸してくれた子がいるのですね。有り難く思います。学校の中でこのような輪が広がり、子どもたちが自分の長所や特技を生かして活躍する場面が増えてくるといいなあと思っています。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和7年1月24日 No.83

6年生を送る会に向けて



2月27日(木)に予定されている「6年生を送る会」に向けて各学年ごとに準備が始まっています。その一つが全校合唱です。毎朝の吉浜っ子タイムの時間に、それぞれの教室から合唱曲「Song is my soul」が聞こえてきています。写真のように、小さな口を大きく開けて楽しそうに歌っています。

コロナ禍以来、全校のみんなで歌う機会はほとんどありませんでした。子どもたちにはみんなと心を合わせて歌う楽しさを味わいながら6年生への感謝の気持ちを込めて歌ってほしいと思っています。6年生を送る会当日を楽しみにしています。



おめでとうございます

◇愛知教育文化振興会主催

みかわ彩発見絵画コンクール(秋・冬の部)

☆優秀賞

4年 中川知咲さん

題名:「おもちの香りと家族の笑顔」

☆作品展

日時:令和7年2月7日(金)～2月8日(土)
9時30分～15時30分

会場:三河教育会館

備考:「かきぞめコンクール」の作品展と合同で開催します。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和7年1月27日 No.84

1月24日から30日は全国学校給食週間です

1月24日から30日までが、「全国学校給食週間」です。1月の給食だよりでお知らせしましたとおり日本の学校給食の始まりは、明治22年までさかのぼります。山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）にある大督寺というお寺に開校された私立忠愛小学校で、貧しくお弁当を持って来られない子どもたちのために昼食を提供したのが学校給食の始まりとされています。その後、全国各地へと学校給食は広がっていきましたが、戦争の影響で中断されてしまいました。

長く続いた戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するために、アメリカのLARA（アジア救援公認団体）からの援助物資で学校給食が再開されることになりました。そして、昭和21年12月24日に給食用物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」とすることが定められましたが、この日は冬休み直前で給食がない学校がほとんどであるため昭和25年度からは、冬休みと重ならない1月24日～30日の1週間を「全国学校給食週間」とし、学校給食の意義や役割について理解や関心を高めることなどを目的に、毎年、全国でさまざまな行事が行われます。



昭和22年ごろ



トマトシチュー・ミルク



LARA物資の脱脂粉乳や缶詰を使って、給食が作られました。ミルクは、牛乳から脂肪分を取り除いて乾燥させた「脱脂粉乳」をお湯で溶いたもので、独特な風味で苦手な子どもが多かったようです。

昭和25年ごろ



コッペパン・ミルク・カレーシチュー

アメリカから寄贈された小麦粉を使い、パン・ミルク・おかずの「完全給食」が始まりました。おかずには、当時は安価だったクジラ肉やちくわがよく使われていました。

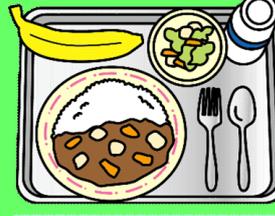
昭和40年ごろ



ソフトめん五目あんかけ・牛乳・甘酢あえ・みかん

パン以外の主食として、昭和38年ごろからソフトめん（ソフトスパゲッティ式めん）が導入されました。牛乳は、昭和33年から一部地域で供給され、昭和39年に本格的な供給が始まりました。瓶の牛乳でした。

昭和51年ごろ



カレーライス・牛乳・サラダ・バナナ

昭和51年に米飯が導入されました。当時は、ごはんを炊く設備がないところが多く、おかずを作る釜で、ごはんとおかずの両方を調理するため、ごはんの回数は今ほど多くありませんでした。まだ瓶の牛乳でした。

現在の学校給食は、ごはんを中心とした和食の献立を基本に、郷土料理や行事食を提供しています。また、世界の多様な食文化への理解を深めることを目的とし、世界各国の料理も取り入れています。学校給食は食事の提供だけでなく、栄養バランスや地域の食文化、食べ物への感謝の気持ちなど、さまざまなことを学ぶための「生きた教材」として活用されています。



私が小学生の頃の給食の主食はほとんどがパンでした。そのパンも食パンがほとんどで、高学年になるとこの食パンが3枚（今の食パンよりはサイズが小さかったと思います）になったことが思い出されます。保護者の皆さんが、子どもの頃に食べていた給食で印象に残っているメニューはありますか。お子さんとも話題にしていただけならと思います。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和7年1月29日 No.85

吉浜小学校&吉浜まちづくり協議会コラボ事業「クイズおよびスポーツ大会」



「吉浜神社神楽保存会囃子連」のみなさんに来ていただき、「チャラボコ」で花を添えていただきました





風が強く、寒い一日となりましたが、たくさんの方にご参加いただき、「クイズおよびスポーツ大会」を行いました。ご参加の皆さん、ありがとうございました。このイベントのために吉浜まちづくり協議会の子どもグループと、本校の児童会を中心とした5、6年生の子どもたちから企画・準備を進めてきました。学校の運動会と違い、練習もなくぶっつけ本番ですので、子どもたちもイメージができず、進行等苦勞するところもありましたがよい経験になったと思います。子どもたちはよくがんばりました。

- ・児童会役員以外の5、6年生の子たちもイベントづくりに協力してくれたこと
- ・当日は参加することができないと分かっていた子が、企画・準備には参加していたこと

この2点が大変印象的でした。

吉浜まちづくり協議会の横井会長さんからはこのような行事を続けていきたいとの話をいただきました。今回参加してくれた子たちが5、6年生になった時に企画・運営する側に立ってくれることでしょね。